

県民と郷土を結ぶ総合博物館

# 青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻175号 令和元年(2019)12月13日 Vol.50 No.2



青森県立郷土館では、本県の歴史解明のため、考古分野の調査研究事業として、開館当初の昭和48(1973)年度から平成14(2002)年度まで、県内13市町村21か所において発掘調査を行ってきました。

この中には、世界文化遺産への推薦候補である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のうち大平山元Ⅰ遺跡、田小屋野貝塚、二ツ森貝塚及び亀ヶ岡石器時代遺跡の発掘調査も含まれています。これらの発掘調査の成果は報告書や当館調査研究年報にて公表してきましたが、遺跡の内容を表す貴重な出土品は実物を公開するため、修復作業を進めてきたところです。このうち、宇鉄遺跡出土品は国重要文化財に、大平山元Ⅰ遺跡出土品は県重宝に指定されています。

このような中、本年7月30日に開催された国の文化審議会世界文化遺産部会において「北海道・北東北の縄文遺跡群」が令和元年度の世界文化遺産推薦候補に選定されました。

本企画展は、これまでの当館発掘調査の成果を一堂に展示・公開する初めての展示会です。本企

画展を通して、本県の遺跡と世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」への理解を深めていただくとともに、令和3(2021)年の世界文化遺産登録の実現に向けて御支援・御協力を頂ければ幸いです。

## 縄文遺跡群と県立郷土館 -発掘調査の軌跡-

◇開催期間：12月7日(土)～令和2年1月30日(木)

※年末年始休館：12月29日(日)～1月3日(金)

◇開館時間：9:00～17:00

◇会場：特別展示室(大ホール)

◇観覧料

○12月 一般 310円(250円)

高校・大学生 150円(120円)

○1月 一般 250円(200円)

高校・大学生 120円(100円)

※( )内は20人以上の団体料金。中学生以下は無料。障がいのある方・老人福祉施設に入所の方は観覧料免除。上記金額で常設展示もご覧になれます。

本企画展に向けて、発掘調査出土品の整理と土器の修理作業を行ってきました。この作業により、公開可能となった資料が多数あります。中には新たに接合し復元された土器もあり、本展が初披露の場となります。ここではその一部を紹介します。写真①は外ヶ浜町宇鉄遺跡で発見された弥生時代中期の土坑墓です。土坑墓には大きな土器が2つ伏せた状態で埋まっていた。



写真① 外ヶ浜町宇鉄遺跡 土坑墓甕棺出土状況 (1987年調査)

この土器は、底部を含む下半部の破片が見つからないため、安定している土器の口縁部を下にした逆さの状態が長年保管していました。今回、この土器の下半部を石膏で補充したことで、土器を立たせることに成功しました(写真②)。初めて本来の土器の形を正位置でみることができ、口縁部の形状や幾何学的な文様を改めてじっくり観察できます。この土器の作りが精巧であるためか、逆に修理作業は予想以上に困難でした。この発掘調査での出土品の一部は国の重要文化財となっています。指定外の優品も重文とともに一挙展示します。



写真② 土坑墓甕棺土器修復中



写真③ 東通村下田代納屋遺跡 縄文早期 (1973・1974年調査)

下田代納屋遺跡から出土した貝殻文様の尖底深鉢形土器は、土器の内外面が黒く変色したり、炭化物が付着しています。これは煮炊きの痕跡であり、尖底土器の使い方方を示す貴重な資料です。

写真③～⑤は久しぶりの公開であり、特に当館で調査した亀ヶ岡遺跡出土品をまとめて公開することは稀です。写真⑥の荒谷遺跡の出土品は初公開となります。

このように展示品の大半は、初公開、久しぶりの公開となる資料ばかりです。

この機会にぜひご覧ください。

(主任学芸主査 杉野森淳子)



写真④ 弘前市十腰内(2)遺跡 縄文後期 (2001年調査)



写真⑤ つがる市亀ヶ岡石器時代遺跡 縄文晩期 (1980～1982年調査)

## 土館（展示資料紹介）



写真⑥ 八戸市荒谷遺跡 縄文晩期 (1984年調査)

※本遺跡の調査成果は概報報告のみ（『青森県立郷土館調査研究年報10号』）であり、資料公開は今回が初です。

青森市細野遺跡・三内丸山遺跡・小牧野遺跡 弘前市十腰内(2)遺跡・大森勝山遺跡 むつ市角違(3)遺跡  
八戸市是川石器時代遺跡・長七谷地貝塚・荒谷遺跡 つがる市丸山遺跡・田小屋野貝塚・亀ヶ岡石器時代遺跡  
三沢市山中(2)貝塚 外ヶ浜町大平山元Ⅰ遺跡・大平山元Ⅱ遺跡・大平山元Ⅲ遺跡・宇鉄遺跡  
鱒ヶ沢町大曲遺跡 七戸町二ツ森貝塚 東北町長者久保遺跡 三戸町松原(1)遺跡・杉沢遺跡  
南部町剣吉荒町遺跡・堯渡遺跡・荒屋敷遺跡 東通村下田代納屋遺跡

### 展示品出土遺跡

#### 【特別講演】

「県重宝指定記念 大平山元遺跡群のこれから」

駒田透氏（外ヶ浜町教育委員会）

1月25日（土）13:30～15:00 ＊無料

#### 【特別講座(ワークショップ)】

青森の達人③「あけび蔓細工の魅力」

竹内啓子氏（あけび蔓工芸作家 竹内あけび工房主宰）

1月18日（土）13:30～15:00 ＊無料

先着20名、受付当日12:00～

#### 【土曜セミナー】 13:30～15:00 ＊無料

○ 弥生時代以降における「津軽海峡圏」とは

12月21日（土）根岸洋氏（ゲストキュレーター）

○ 亀ヶ岡文化から弥生文化へ

12月28日（土）岡本洋（当館職員）

○ 縄文人が編んだもの～編組製品いろいろ～

1月11日（土）杉野森淳子（当館職員）

○ 縄文遺跡群の保存と活用

2月29日（土）一町田工氏（ゲストキュレーター）

#### 【ワークショップ】

「体験 縄文人を感じる！」

ミニチュア土器・土偶作り、土器の拓本（墨で文様を写しとる作業）、石器を使うなど

1月12日（日）14:00～15:30 ＊無料

#### 【当館職員による展示解説】 有料

12月28日（土）11:00

1月11日（土）11:00

1月12日（日）11:00、13:00

当館職員が展示品をピックアップして、30～40分で解説します。

＊観覧券をお持ちの上、企画展会場入口へお集まりください。

●いずれも事前申込み不要、館内で実施します。

### 関連行事

## テレビ電話でこんにちは！～初の遠隔授業～

6月27日と9月13日に県立青森第一養護学校中部の教室と当館をインターネットで結び、無料通話アプリ「スカイプ」のビデオ通話（テレビ電話）機能を用いて遠隔授業を行いました。

同校で取り組んでいる生活単元学習「青森県をくわしく知ろう」の中で、「縄文時代の人びとの暮らし」、「青森県のりんご」について生徒が疑問に思ったことを直接学芸員に質問し、それに対して学芸員が展示資料や解説パネル等を提示しながら回答、解説しました。

授業は対話形式で展開し、モニターにはリアルタイムで展示室や展示資料が映るため生徒の興味関心は自然に高まり、予定にない質問も数多く出されました。

また、画面を通して生徒と学芸員の表情が伝わるので互いに親近感も湧き、学芸員にとっても楽しくとても充実した時間となりました。

博物館教育は、実物資料を実際に見たり触れたりして実感を伴った学習をすることが基本かもしれません。しかし、このようなICT（情報通信技術）の活用も様々な学校事情や児童・生徒の実態に合わせられる効果的な学習ツールの一つであり、主体的・対話的で深い学びを実現する上で十分効果的であると言えるでしょう。

（主任研究主査 福士道太）



画面を通して解説する学芸員



楽しく対話ができる遠隔授業

## 戦前から残る貴重な建物をめぐる

東北6県と仙台市は毎年10月の最後の週末を「東北文化の日」と定めており、東北地方の文化に触れてもらうため、この日から1ヶ月間、各博物館ではさまざまな催しが行われます。郷土館では10月26（土）、27日（日）の二日間、東北文化の日の関連事業として観覧料を無料とするほか、来館者に楽しんでいただけるイベントを行いました。

例年人気となっているのが、郷土館旧館部分のふだんは一般の方が入ることのできないエリアを公開し、解説案内をする「文化財建造物をめぐる」です。郷土館の旧館部分は国の登録有形文化財（建造物）となっており、第二次世界大戦の戦火を免れた非常に貴重な建物。参加されたお客様は階段にはめこまれた精巧なエンブレム、第五十九銀行青森支店時代の金庫（現在は収蔵庫）、2階からの景色など、ふだんは見ることのない郷土館の美しさを堪能していました。また、エンブレムには数字の5と9が隠れてデザインされていること、金庫の扉周りの壁には偶然貝の化石が紛れ込んでいることなど、解説員からのちょっとした豆知識にみなさん感心していました。

「文化財建造物をめぐる」は主に郷土館の無料開放日に開催されます。次回の開催日が決まりま

したらホームページ等でお知らせしますので、ぜひご参加ください。

（TTHAグループ 櫻庭友輔）



階段にはめこまれたエンブレムを見る参加者



第五十九銀行青森支店時代の金庫（現収蔵庫）

